



夜が長くなってうれしいね。
—フクロウ—



大和市民活動センター[拠点やまと] 第 34 号 2009 年 11 月 20 日発行



絵: 上当イ「徳之島の闘牛」

102歳のちぎり絵作家上当イさんが3歳のとき、お母さんがイさんの妹を出産する際に亡くなった。徳之島(鹿児島県)にお産婆さんがいなかったからだと思い、「お産婆さんになろう」と決心して上京。電車の中で“婦人の職業の早道は美容師”という新聞を見て、美容師ならどこでも仕事ができると思い、文部大臣認可の「女子美髪学校」に入学。20歳から60歳までの美容師生活がスタート。その後の人生は次回で紹介します。

村をあげてのイベントが「闘牛」。イさんのお母さんの実家で飼っていた牛が負けそうになると、頑張らせようと飛び出していった、係りのおじさんに止められた。活発な少女時代を思い出して制作したちぎり絵です。

*この表紙の絵は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

ご来場ありがとうございました

第4回市民活動団体交流まつり カッコーフェスタ'09

～活かそう！ひろがりのわ～

11月7日(土)、8日(日)開催しました。
市民活動の輪が大きくひろがった2日間でした。

みんな、
来てくれてありがとう



カッコーフェスタのシンボル
カッコちゃん

<送付の際、同封されているご案内>

・連続共育セミナー第(26)回「知れば知るほどおもしろい大和市 Part5」のお知らせ

「くじらのしっぽ」の手塚さんの詩を朗読
 ドラマティックカンパニーYamato50

自殺予防という重いテーマの研修で講師との話にリンクさせて詩と文をドラマティックカンパニーYamato50のメンバーが朗読しました。詩は「くじらのしっぽ」の手塚郁恵さんの詩集「こころ ことば いのち」から次の二篇が読まれました。

『あなたに「はじめに」かえて』
 『そこにいるには 誰?』

*参加者の声

- ・朗読を入れることにより、講義にメリハリがきいて最後まで話に集中できた。
- ・自分で文章を読むより、朗読で耳から伝わった方が心にしみる感じがします。

ドラマティックカンパニーYamato50は「大和の人財」にスポットを当て広く発信し、共に創造にかかわることで市民と街のプライドを創り上げていく活動をしています。

センター登録団体同士がつながり、今回の講演と朗読のコラボレーションとなったことに、市民活動センター発の“ひろがりの わ”を実感しました。(報告・関根孝子)

第2回やまと国際アートフェスタ

学校の先生やご家族から「この絵こそ“私たちのたからもの”です」と言われました。

～第2回やまと国際アートフェスタ実行委員長・長谷部美由紀さん談～

開催の2日目、10/25(日)の午後、イオンモール大和の一隅にあるウォーターコートに子どもたちの「絵」を見に行きました。その狭い会場は「絵」もぎっしりと詰まっていたのですが、見る人たちもたくさんいて、そこにはなにか濃い熱気がありました。絵は去年の投稿のほぼ倍192点がここにあり、最終的な来場者数は去年の1.2倍の約1200名カウントされた(実行委員長の長谷部さん談)。今回の絵のテーマは「私のたからもの」。その解釈は実にさまざまで自由だ。家族、平和、友達、スポーツ、飼っている虫……。会場のメッセージボードに貼付されたポストイットを見る。

「世界にはいろいろな子どもがいることを伝えている」「忘れていたものを思い出した」「いいものを見せてもら

った」、同じ国の子どもや親も見てくれるだろうと中国語やスペイン語で書かれたものもあった。来年の「やまと国際アートフェスタ」が楽しみだ。(報告・小杉皓男)

*「あの手 この手」7,8,9月号の表紙の絵は第1回やまと国際アートフェスタ入賞作品を掲載しています。



「センター」のある日ある時

11月14日(土)雨のち曇り

お父さんといっしょに来館したふゆかちゃん(7歳)が、この「あの手この手」の宛名シール貼りを手伝ってくれました。ありがとう。



*みなさんのイキイキとした“活動の現場から”の投稿をお待ちしています。

25回
 今度の連続共育セミナーは
 知れば知るほどおもしろい大和市ですPART4
大和市を知りたい
 もっと
 です。
 お話しリベルタの 丸山佐和子さん
 日: 11月30日(月) 18:30~20:30
 会場: 大和市民活動センター

連続共育セミナー 第(25)回は

「知れば知るほどおもしろい大和市 PART4」

日時: 11月30日(月) 18:30~20:30

場所: 大和市民活動センター会議室

暮らしに役立ついきいき生活情報誌「リベルタ」の編集長の丸山佐和子さんをゲストにお迎えします。取材現場から見えてきた“おもしろい大和市”を話していただきます。

第(26)回の連続共育セミナーは

知れば知るほどおもしろい大和市PART5

「おいしい大和を知りたい」

12月19日(土) 18:30~20:30

大和市民活動センターセンター会議室にて開催。

大和のお奨め品を、みんなで飲んで、食べて、大和のことを語りあって、おいに盛り上がりましょう!

参加費は1,000円。



[拠点やまと]が制作発行する
大和市民活動センターの広報紙・月刊「あの手 この手」。
11月20日付け第34号をお届けします。

今、私の手の平に木の実がある。色は黒、大きさはパチンコ玉より一回り大きい。特長はとにかく固い。木のテーブルに落とすと、カチンと音を立ててはねる。

これ、なんの木の実でしょう。ヒントは三つ。①羽根つきの羽の球（たま） ②石鹼（せっけん） ③笛。今どきこれは一見とんでもない脈絡のないヒントのように思えます。でも、高齢の方ほど正解率は高くなる要素を持っているのですが。

答えは……「ムクロジ」の実です。

このムクロジの実は先日、大和市の「泉の森」にある[しらかしのいえ]の前庭に1本あるムクロジの木から採集してきたもの。

ムクロジは昔から季節の巡りに応じて、毎年毎年秋にたくさんの木の実をつくってきた。よく神社に植林されていて、そんなに珍しい樹木ではない。気付くと大和市内のあちこちにムクロジはある。けれども、ヒントに挙げた羽根つきはもはや「絶滅危惧種」。

50年前は確かにあった羽根つき。お正月の風景でした。このカチンカチンと羽の球（たま）を打つ音が家の中まで聞こえたものでした。（下段に[拠点やまと]メンバー、60歳代の望月さんに正月、羽子板で羽を打つ姿を思い出して描いてもらった）

ヒントの②に石鹼をあげました。このムクロジの実（種）を包む果皮を水に入れてもむと、なんと細かな泡が泡立つのです。サポニンを含んでいるので明治時代まで、実際石鹼のように使われていたとか。

さて、今度は③の笛。種がはいっていて黄色だった果皮が日を置き、黒く固まったら、蓋（ふた）状のところを外し、ふーっと強く吹くと、中にある種がくるくるっと踊って、野鳥がさえずっているように鳴かすことができる。

ほんの50年から100年のちょっと前まで、あそびに日々の生活に例えばこのムクロジ実を役立て、季節に添って生きてきた先人の知恵を見ることができる。自然の子である人間の生活。それがいつしか自然を奴隷のようにこき使ってきてしまって、どこか危うい「快適便利な」今があるように思います。近年の天候や気候の異変は自然の復讐のサインなのでしょう。

今、手の平にある黒く固いムクロジの実の声を聞きたいと思う。

2009/11/20 [拠点やまと]広報係・小杉 皓男 記

